



## 第3次丹波篠山市総合計画 — 後期基本計画 —

概要版



### 総合計画とは

丹波篠山市の総合計画は、自治基本条例に規定する「総合的かつ計画的な市政運営を図るための基本となる計画」として策定し、まちづくりの基本的な方向性を示すものです。

第3次丹波篠山市総合計画は“これまで”の取り組みを継承しながら、さらに磨き上げるとともに、人口減少下において本市をとりまく状況の変化に対応するため、丹波篠山市としての新たなまちづくりに踏み出そうとする“これから”の方向性を示す最上位計画です。

## 基本計画 各論

### 6つの基本目標(施策の大綱)

基本構想で定めたまちづくりの基本目標(施策の大綱)を基に、まちづくりを進める基本計画の施策体系を示します。

#### 暮らし、人

市民が主役で暮らしの質を高めるまちづくり

- ・市民の活動を支援し、みんなの活躍によって地域がつくられていく仕組みを整えます。
- ・防災意識や防犯意識の向上、交通安全など地域ぐるみの取り組みを支援します。
- ・道路網や交通網、上下水道などの生活インフラの整備について、計画的な維持管理に努めます。

#### 福祉、健康、教育

すべての人が尊重され、いきいきと暮らせるまちづくり

- ・住民それぞれが支え合って、安心していきいきと暮らせるまちをめざします。
- ・ライフステージに合わせた健康づくりに、関係機関と相互に連携し、社会全体で取り組みます。
- ・ふるさとの豊かな環境の中で、地域全体で「子育て」の文化を育てます。
- ・生涯にわたり自ら学習し能力を高め、地域や社会の課題解決につなげていけるよう取り組みます。

#### 農都創造

地域に根ざした産業と  
うるおいのあるまちづくり

- ・先人から受け継がれてきた環境を守り、活かす人材を育て、うるおいのあるまちをめざします。
- ・特産物の育成と持続的な担い手づくり、農地の保全を通じて、強い丹波篠山農業をめざします。
- ・おもてなしの環境を整え、さらなる交流人口の増加と滞在時間の延長を図ります。
- ・企業誘致とあわせて市内企業の支援、地元企業への就職などを通じて、商工業の振興を図ります。

#### 景観、歴史、文化

良好な景観や伝統文化を大切に  
継承し、活用するまちづくり

- ・丹波篠山市は、緑豊かな田園景観が継承され、今もなお日本の農村の原風景に包まれています。他都市では失われてきたところも多く、貴重な景観を将来につなげていきます。
- ・多くの有形、無形の文化財の積極的な保存、活用を図ります。
- ・身近に芸術・文化が体験できる環境を整えます。

#### 行財政運営

市民と行政が手をたずさえて  
取り組むまちづくり

- ・市民生活に関わる重要な施策の計画段階で、さまざまな意見を聴いて進めます。
- ・限られた資源を効率的に活用しながら、最小の経費で最大の効果を生み出します。

#### ブランド戦略

丹波篠山ブランドを創り、  
活かすまちづくり

- ・これまで多様な地域、多様な人たちが営んできた“暮らし”をまち全体の良好なイメージとして、その価値を高めます。
- ・さまざまな媒体を使って情報を発信し、丹波篠山のまちのイメージを知ってもらい、関心をもつ人々を増やします。

### 第3次丹波篠山市総合計画後期基本計画

■閲覧場所 4月以降に市役所本庁舎や各支所などで閲覧可能です。また、市ホームページからもご覧になれます。



問い合わせ  
創造都市課 ☎552-5106

財政

実質公債費比率は、起債発行に際して県の許可が必要な18%を下回る15.4%（R5年度決算）となりましたが、人事院勧告による給与制度の大幅な改定による人件費増や物価高騰による物件費の増により、市の財政は厳しいものとなっております。



ありたい将来の姿

暮らしのイメージ

未来の丹波篠山を形づくるのは、おいしい農産物やきれいな城下町、自然景観などに加えて、そこで暮らす人々の「つながり」です。人と人のつながりを大切にして、一人ひとりが主役になり、未来の丹波篠山市をみんなでつくっています。

土地利用のイメージ

脈々と受け継がれてきた商工業、居住、交通、レクリエーションなどの都市機能を、「農」と調和する形で内包・共存させたまちとして、“「農」が培った環境が、いつも人々の暮らしに息づく空間”を継承し、美しい田園景観の中で活力を創造するまちづくりをめざします。

暮らしの空間と生活圏のイメージ

城下町の区域と、JR篠山口駅や丹南篠山口インターチェンジを中心とする新しいまちの区域の2つの都市核が形成され、その周辺を農地や里山を含む農村集落、さらに丹波焼の郷である今田や宿場町の名残を残す福住など特徴のある区域が暮らしの空間を形成しています。しかし、19のまちづくり地区の範囲だけを生活圏域としていくことはできず、さらに少子高齢化や担い手不足によってコミュニティの維持が難しくなっていることから、市内の他地区や近隣市町にまたがるコミュニティの圏域や生活圏域での暮らしについて、交通網の整備と併せて考えます。



基本構想

目的

「歴史や伝統」「人権・平和・環境」「市民協働による自治」など、これまでの取り組みをさらに磨き上げるとともに、人口減少下にある本市をとりまく状況の変化に対応するため、市として新たなまちづくりに踏み出そうとする“これから”の方向性を示します。

第3次丹波篠山市総合計画の構成

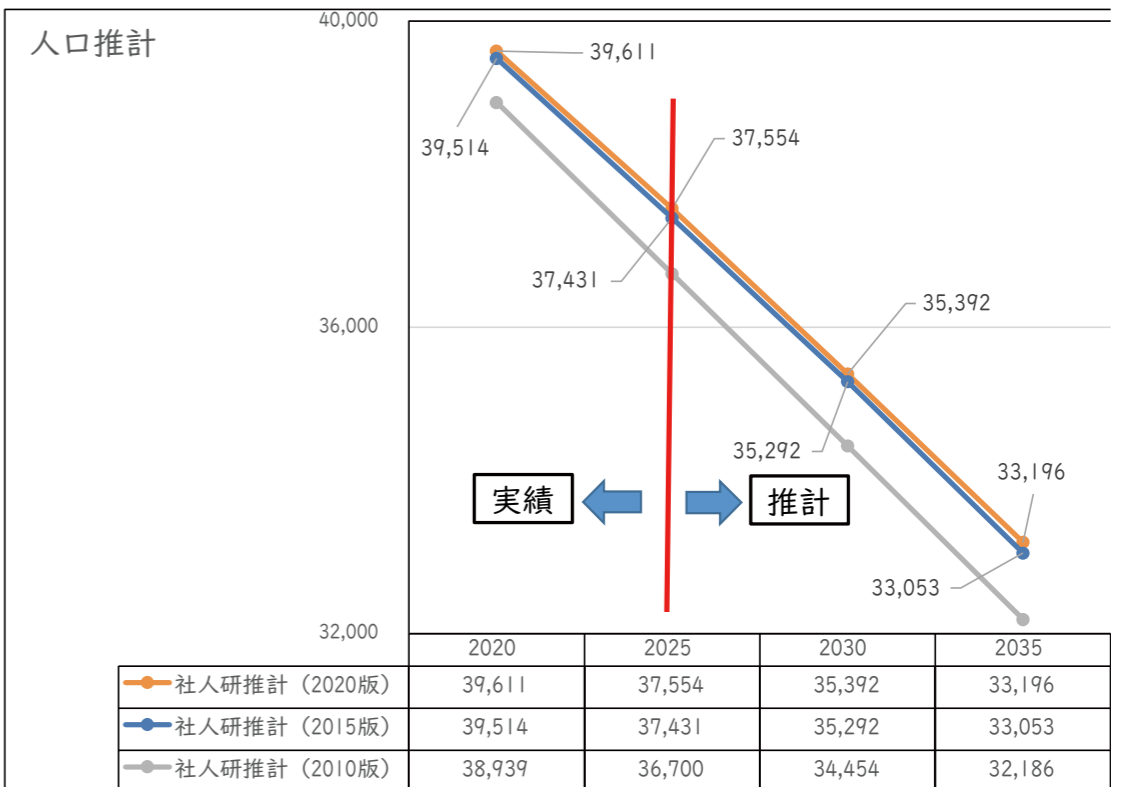
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
基本構想	基本構想（令和3～12年度）									
基本計画	前期基本計画（令和3～7年度）					後期基本計画（令和8～12年度）				

期間と構成

将来の見通しについて

人口

- 人口の減少は日本全体で問題で、平成20年（2008年）をピークに減少局面に入り、若者や女性が地方から都会へ転出する傾向（進学や就職、アンコンシャス・バイアス等）にあります
- 丹波篠山市は、5年が経過して推計値の減少の傾斜はわずかに改善したものの、人口は減少し続ける見込みです。また、都市部に人口が移動するなどの主要因としては、労働生産性の低さにあると考えられます



## 取り組みの流れ

将来像の実現や取り組みの基本方針に基づいて、まちづくりに取り組むにあたっての基本目標（施策の大綱）を設定します。

### 将来像

「丹波篠山」だからこそ実現できるあなたの夢・安心・未来

#### 基本方針

丹波篠山市が“活気を保ち続けられるまち”であるために、基礎となる農村集落の暮らしを維持しながら、丹波篠山だからこそできるまちづくりに取り組みます。

多様で複層的なコミュニティづくり

チャレンジと支え合いの土壌づくり

環境との共生と経済が循環する暮らしづくり

基本目標 1

基本目標 2

基本目標 3

基本目標 4

基本目標 5

基本目標 6

シンボルプロジェクト（美しい農村を活かした循環型経済をつくる）

シンボルプロジェクト（美しい農村のまちづくり人財をはぐくむ）

シンボルプロジェクト（美しい農村を支える基盤をつくる）

シンボルプロジェクト（美しい農村でのあたたかい暮らしを守る）

## 基本計画 総論

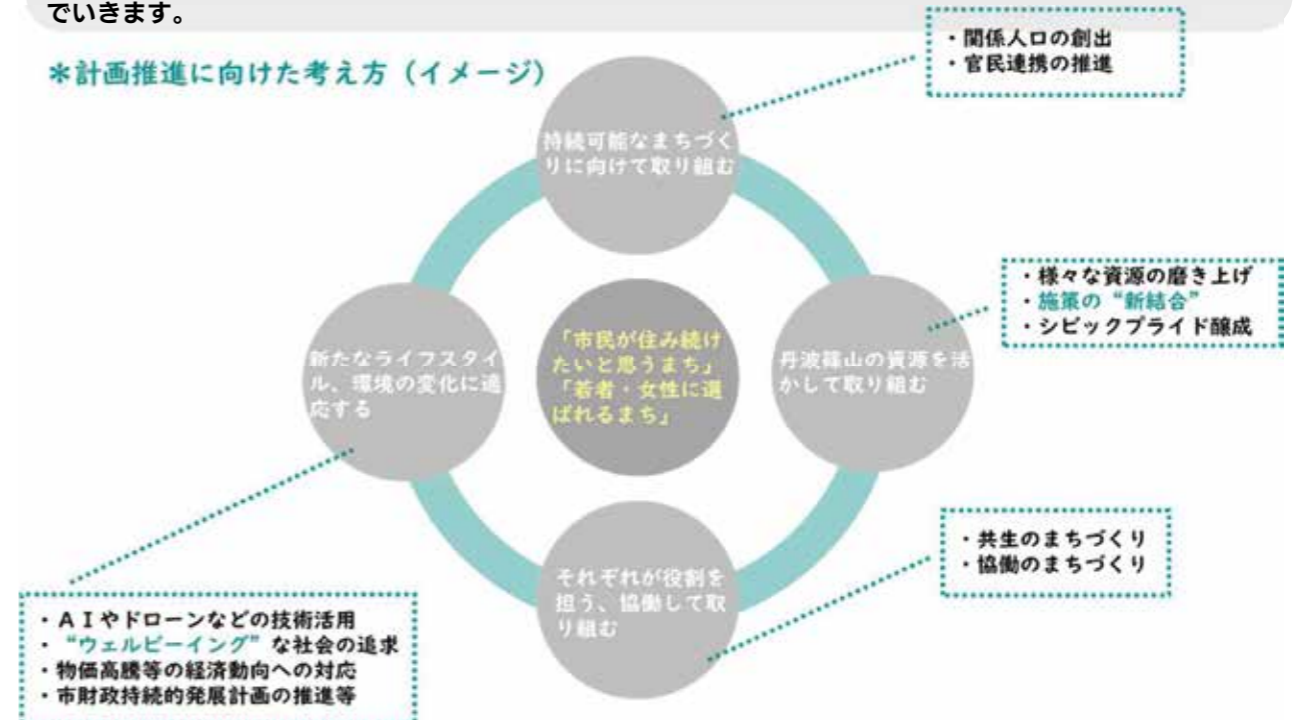
### 丹波篠山市を取り巻く環境の変化

- **人口減少社会の加速**  
年少人口・生産年齢人口が低下し、高齢化率は令和4（2022）年度末で35%を超えています。
- **物価の高騰と賃金**  
丹波篠山の様々な資源を磨き上げ、生産現場の効率化や付加価値化を図る必要があります。
- **生活環境の変化**  
複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、包括的な福祉支援体制の構築が必要です。また、少子高齢化の進展や定年延長の影響等による担い手の課題があります。
- **地方への注目の高まり**  
丹波篠山市に関心のある人たちや組織が活動しやすい環境を整備することにより、さらに若者や女性に“選ばれるまち”になる必要があります。
- **丹波篠山の農業・地域ブランドを未来へ**  
農業者の高齢化と減少が進み、伝統的な技術や知恵の継承、農地の維持管理、地域ブランドの持続などに大きな課題を抱えています。
- **予断を許さない財政状況、厳しさの増す財政状況**  
物価高騰や人件費の大幅な上昇に伴う経常経費の増加により、経常収支比率が高い水準で推移するとともに財政調整基金残高は減少傾向にあります。

### 基本計画の推進に向けて

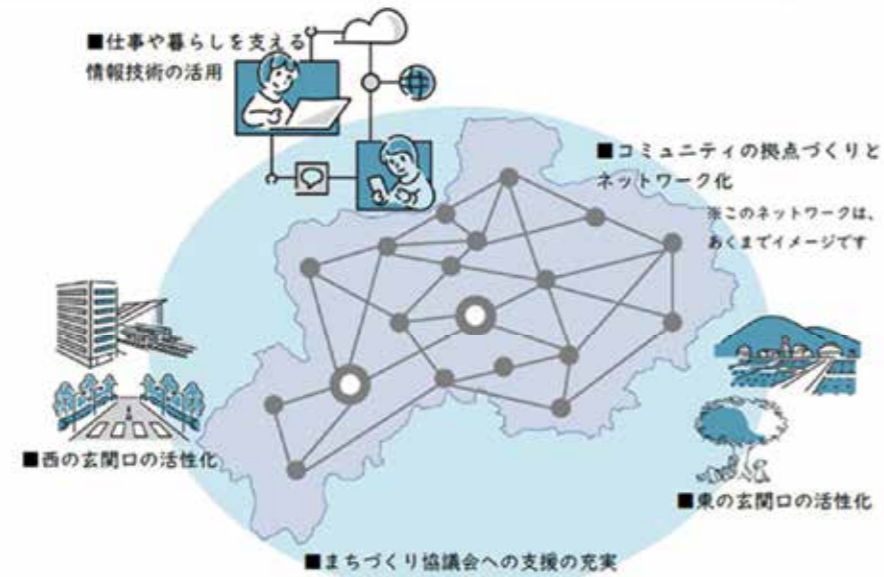
丹波篠山市では2025年大阪・関西万博にあわせて、「日本の美しい農村、未来へ」をテーマに丹波篠山国際博を開催しました。この丹波篠山国際博を契機として、改めて醸成された丹波篠山市民としての誇りや愛着については、丹波篠山国際博のレガシーといえるものです。そして、その源泉となる自然や歴史、文化などのさまざまな魅力ある資源については、先人による農の営みや伝統的な祭礼、伝統的な工芸技術等を継承してきた賜物であり、こうした先人によって守られ、つながれてきた丹波篠山という美しい農村を次世代へとつないでいきます。

#### \*計画推進に向けた考え方（イメージ）



## 重点施策（シンボルプロジェクト）

### 美しい農村を支える基盤をつくる



- ・隣接する地域や市外の団体等とのネットワークを結ぶなど変化に順応する必要があります
- ・市西部・東部ともに、それぞれの特徴を活かしたバランスの良いまちづくりを進めます

### 美しい農村でのあたたかい暮らしを守る

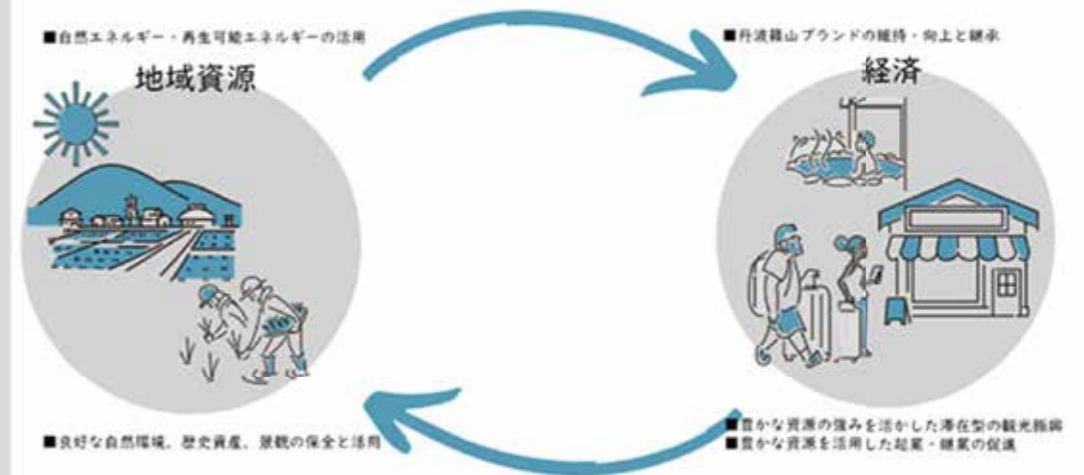


- ・ここで暮らす人も出身者や応援する人たちも、もちろん若い人も若きも、みんなで私たちの日々の営みや安心の暮らし、そして地域を未来につなぐ取り組みを続けます

## 重点施策（シンボルプロジェクト）

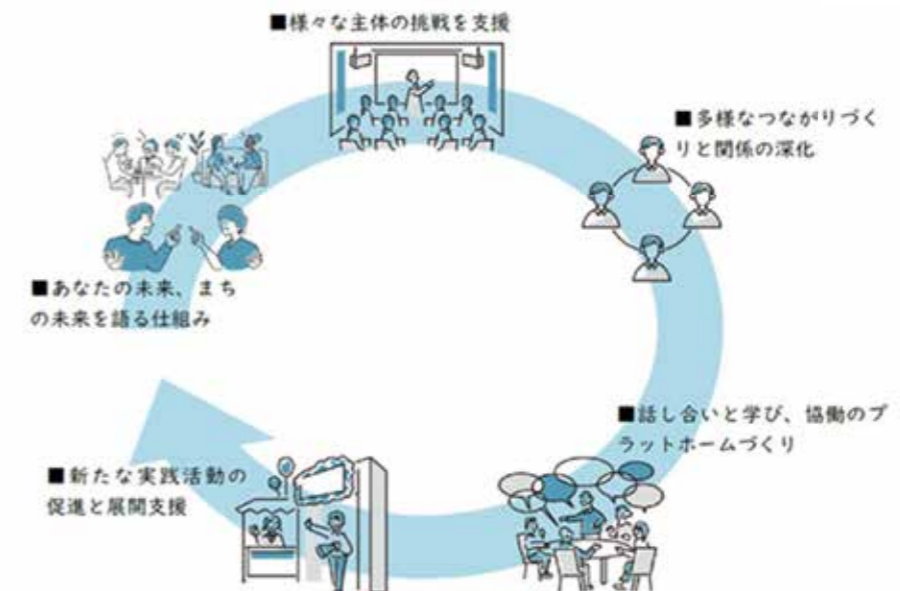
持続可能な地域の実現をめざして基本構想に掲げた将来像と基本方針を踏まえて、基本計画では基本目標（施策の大綱）・中・小目標を体系的に示し、小目標ごとにめざす姿の実現を図りますが、細かい分野に捉われず大きな方針として、前期基本計画中ではとりわけ重点的に取り組む4本の柱をシンボルプロジェクトと位置付けて取り組んできました。後期基本計画においては、2025年に「日本の美しい農村、未来へ」をテーマに開催した丹波篠山国際博のレガシーを次世代へ繋いでいくため、引き続きこの4本を柱に、基本的な考え方を踏襲して、取り組んでいきます。

### 美しい農村を活かした循環型経済をつくる



- ・これまで守ってきたものを上手に、持続的に活用して経済につなげる仕組みをつくります
- ・地域資源と経済をうまく循環させ、夢を実現する共生の暮らし方をめざします

### 美しい農村のまちづくり人財をはぐくむ



- ・これからも地域の活力を高めるためには、新たな人たちの活動が大切です。さまざまな立場の人々が活躍できるよう寛容な雰囲気や醸成や応援する土壌をつくります